



JEG ニュースレター 126号

www.jegch.jimdo.com

2012年6月28日発行

小さな証

スイス生活が5年、日本育ちのデンマーク人学者の妻で、5児の母であるトムセン・千香子姉の証です。



スイスJEG修養会

ドイツで開かれた今年のスイス教会の修養会はいくつもの特色がありました。記事と映像で紹介いたします。



被災地から

利府キリスト教会を基地に救援活動をするオアシスライフ・ケアの菊地神学生からの最新レポートです。



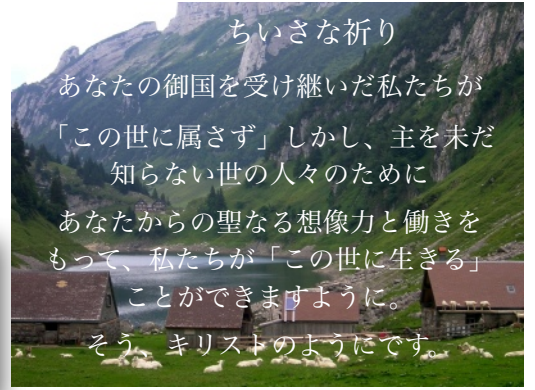
ミュンヘン宣教の感謝

ミュンヘンに日本語教会が誕生して一年、安藤里佳子宣教師から感謝の報告です。



ちいさな祈り

あなたの御国を受け継いだ私たちが
「この世に属さず」しかし、主を未だ
知らない世の人々のために
あなたからの聖なる想像力と働きを
もって、私たちが「この世に生きる」
ことができますように。
そう、キリストのようになります。



ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。
マタイの福音書 18：20

2012

スイスJEG修養会



2012年のスイス教会の修養会は、6月8日から10日まで、ミラノ賛美教会から内村伸之牧師を講師としてお迎えし、南ドイツ・シュタイネンにて、「神の家族のスマールグループ」をテーマに40名の参加者とともに貴重な学びと交わりのときを持つ幸いを得ました。

ちいさな証

神様にすべてを委ねて生きること

トムセン千香子

スイス日本語福音キリスト教会



今ここに私を神様の子供としてくださった神様に、大いなる不思議と感謝をもって小さな証を書かせていただきます。

京都の東山区という沢山のお寺に囲まれたところで育った私は、クリスチャンとは全く無縁の環境にいました。私は、8歳の頃より尋常性乾癬という難病指定されて

いる皮膚疾患を患っています。いろいろな治療をしてきましたが、やはり治す事は、無理なようです。

両親も藁にもすがる思いで、人から聞いては、私を方々の病院に治療を受けさせに連れて行ってくれました。何人かの祈禱師のところも訪ねましたが、あるところでは、神様の水でこれを飲んだら治ると言われ飲まされた事もあります。でもそんなものは、もちろん、効くはずもありません。でももしかしたらという思いもありました。私は、神様のおられないところで神様を捜していたのです。

そんな頃夏祭りか、どこかのお祭りの出店のアクセサリー屋さんで、イエスさまのお姿のある十字架のペンダントが無性に欲しくて母にせがんで買ってもらいました。とても嬉しかった事を覚えています。そして今もそれは、箱に入れて引き出しに大事にしまっています。キリスト教の事を何も知らない私が、なぜほしがったのか、今でも自分自身もはっきりとは、わかりませんが、治らない病の中で、神様を捜していたのかもかもしれません。

学校では心ない言葉に傷ついた事も何度もありますが、神様は良い友人を与えてくださり、学生生活は、ありがたいことに基本的に楽しく過ごせました。年頃の頃は、自分の醜い体に涙した事もあります。でも不思議な事に死にたいと思った事はありませんでした。何だかわかりませんが、先に希望がある。温かな光のようなものがあると感じていました。それは今思えば、将来用意されていたイエスとの出会いだったのだと思います。

20代半ばに夫ハンスと出会いました。彼との出会いが私にとって初めてのクリスチャンとの出会いでした。彼は、私の病気を気にも留めない人でした。私を病ごと受け

入れてくれる彼に、何という人だろうと驚きました。当時彼が住んでいた南ドイツのフライブルグには、有名な皮膚科のお医者様がおられました。ある夏フライブルグに彼を訪ねたおり、彼はお医者様にアポイントを取り通訳をしてくれ、その上自腹を切ってまだ婚約もしていない私に治療を受けさせてくれました。なんと言う人だろうと、またもや驚きました。神様は、彼の行いを通して、私にイエス様をもっと知りたいと思う気持ちを起こさせてくださいました。

彼は、そんなに熱心に伝道するような人ではありませんが、いろいろな私のキリスト教に対する質問に丁寧に答えてくれました。ある時私は、彼に『世界中で一番愛している人は、誰?』と聞いた事があります。私は、もちろん私だと言ってくれるだろうと期待して聞いたのですが、彼の口からは、『イエス様』という答えが返ってきました。思ってもみなかった答えに不意をつかれ、またもや三度目の驚きです。そして私はクリスチャンに対して更に興味を持ち始めました。

それから数年後結婚と同時に洗礼を受けて、晴れてクリスチャンになりました。とてもとても未熟なクリスチャンでしたが、神様は慈しみ深くこんな私をも神様の子供としてくださいました。それまでは、自分の力や、偶像に頼る生活をしていた私をイエスキリストによって和解させてくださいました。

『神は、キリストによって世をご自分と和解させ、人々の罪の責任を問う事なく、和解の言葉を私たちにゆだねられたのです』(コリント2 5:19)

『事実あなた方は、恵みにより、信仰によってすぐわれました。この事は、自らの力によるのではなく、神の賜物です。』(エフェソ2:8)

また神様は忍耐強く、今でも失敗ばかりを繰り返す私を導いてくださっています。特に夫の大学院生生活の中で5人の子供達を育てていたときは、いろいろな困難にぶつかりましたが、そんな困難の中で、神様は、神様に近づく事、そして、神にすべてを委ねて生きることの大切さを教えてくださいました。

『私の恵みは、あなたに十分である。力は、弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ。』(コリント2 12:9)

まだまだ未熟な私ですが、それでも今私は、心から言えます。『世界で一番愛している方は、イエス様、あなたです。』と。





1、スイス日本語福音キリスト教会の修養会は、Haus Frieden(バーゼル市の北東20kmにあるドイツ・シュタイン村の郊外)に遠路5時間をかけてお越しくださいましたミラノ賛美教会・内村伸之牧師を講師としてお迎えし、6月8日から10日まで開催され、大変祝福されました。

た。

今年のテーマは”神の家族のスマールグループ”で、既にイエス様の時代に始められたスマールグループの起源から、聖書的背景とその発展、実際的な応用とともに学ぶ幸いを得ました。金曜日のスマールグループに関するにレクチャーに用いられたファイルならびに土曜日の講演1「健全な関係を養う教会」ヨハネ13：1-17の録音は、ご希望される兄弟姉妹にお送り出来ますので、松林までお申し出ください。

スイス・ドイツに散らばって住み、普段の親しい交わりが容易でないスイス教会の兄弟姉妹にとって、修養会はお互いをもっと知り、兄弟愛を育む貴重な機会となります。また、今年の修養会の特色は、若者と子どもの参加が多かったことです。午前と夕の講演前には、ユースバンドによる素晴らしい賛美が捧げられましたが、スイスJEGにユースバンドが出来る事を一体誰が予想できたでしょうか。そして会場の隅々まで大人と子どもの笑顔と歓声が溢れ、主がこの修養会を喜び、導き、祝福して下さったことをはっきり知らされ、主の深い愛に感謝を捧げました。



最終日の主日礼拝において、内村牧師は”力は弱さのうちに”をテーマに第2コリント12：9-10から解き明かして下さいました。その体に刺と弱さをもったパウロが、その弱さの故に、主の栄光をどうやって現してきたか、そして、弱く小さい私たちに出来る事、深く魂を揺さぶられた説教でした。この説教を編集して添付しましたので内村牧師の渾身の説教を是非お読みになって下さい。

修養会の記録ビデオ(7分)は以下のURLでご覧頂けます。
www.youtube.com/watch?v=1rIION6-NXc&feature=youtu.be

修養会のスナップ：<https://picasaweb.google.com/kojiromatsubayashi0/JEG?authkey=Gv1sRgCPpyodPzl-OkDw>



6月8日-10日 修養会のスナップ

2、日本同盟基督教団元理事長で神奈川県衣笠中央教会・斉藤篤美元牧師は癌で闘病されていましたが、6月4日(月)召天されました。享年75歳。斉藤牧師は、田辺牧師夫妻のヨーロッパ邦人宣教を支える会の世話人の一人として、10年に渡る田辺牧師のスイス教会での働きを支え続けて



くださいました。また、ヨーロッパ・キリスト者の集いに於いても幾度も御奉仕いただきました。残された奥様やご家族の上に主の深い慰めがありますようお願い致します。(写真は昨年7月ご夫婦でアッペンツェルにお越しになった時のものです。)



3、日本人と日本を愛し、36年もの長きにわたって宣教活動をされてきたシグリスト・ワルター、ロッティ宣教師ご夫妻が5月23日スイスに本帰国されました。ご夫妻は、在任中、最愛の娘さんマリちゃんを亡くするという身を切られるような体験をされ、ワルター宣教師も病

という試練のなかでお働きを全うされました。感謝します。これからシャッフハウゼンに住まれ、Gemeinde für Christusの管理人として働かれます。スイスJEGでは、10月28日にシグリスト師をお迎えし、主日礼拝を持つ予定です。

4、スイスJEGでは、6月24日(日)、2年ぶりにダルムシュタットから田辺正隆牧師をお迎えし聖日礼拝を持ちました。お住まいの地から片道360kmを4時間以上かけてお越し下さいましたが、伝道にかける情熱は少しも衰える事なく、とてもお元な姿を見せていただきました。田辺牧師の説教テーマは”神の栄光がほめたたえられるために”で、トムセンファミリーの長男チャーリー兄が初めて通訳を担当して下さいました。この説教は、スイスJEGのホームページでお聴き頂けます。



5、7月22日(日)は、現在欧州に滞在中の前ジャカルタJCF・松本章宏牧師にみことばを取り次いで頂きますが、翌23日、午後14時からヘス明美宅での家庭集会においても松本牧師ご夫妻のお話を聞いて頂けます。松本牧師夫人によるCSもありますので、お子様連れも歓迎します。その後、食事会もあります(残れる方はどうぞ)。また、7月26日には坂野慧吉牧師(浦和福音自由教会)がスイスを再訪され、今村泰典宅 yimamura1019@gmail.com においては28日(土)の午後”伝道コンサート”が、サンクトガーレン市ではクスター節子宅 setsuko@hispeed.ch にて29日(日)午後12時半からの昼食会を経て家庭集会が持たれますので、都合のつく方は是非ご参加下さい。

6、オーニング宣教師およびラシェンコ・ベラ宣教師からの Rundbrief、工藤篤子メールマガジン185号、吉村美穂NL63号、井野葉由美メールマガ88号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、イザール通信、パリ教会バルタージュならびにアジア宣教フォーラムが届いています。読みたい方、定期的な受け取られたい兄弟は松林までお知らせください。

日出ずる国から



自分の思いを打ち明ける事

宮城県は利府キリスト教会の
菊地祥彦 神学生から

震災から1年3ヶ月以上が経ちました。これまでの皆さんのお祈りに心から感謝いたします。

最近、被災地に関する嬉しいニュースがありました。これまで教会が存在しなかった南三陸町に教会（クリスチャンセンター「愛・信望館」）が誕生したのです。南三陸町は私たち（オアシスライフ・ケア）も支援に携わっている地域で、全家屋の約6割が震災によって全半壊しました。

甚大な被害を受けたこの町に、震災後、多くの教会とクリスチャンが支援に訪れました。そして、物理的な復興だけでなく、霊的な復興を祈り求めています。今回、

設立されたクリスチャンセンターでは、教会としての特に霊的な復興の役割を担っていくと聞いています。礼拝はもちろんのこと、炊き出しや茶話会、ゴスペルなどの活動が行われるようです。ぜひ、活動の祝福をお祈りください。

現在、被災地には、多くの心に傷を抱えた人たちがいます。宮城県・岩沼市の仮設住宅では、40代の人々の約6割がうつ傾向にあると東北大学の調査でわかりました。また、大人だけでなく、被災地に住む子供たちも心理的ストレスを抱えていると報道されています。

先日、僕は本郷台キリスト教会（横浜市・栄区）で行われた「子どもの心へ届

くカウンセラー養成講座」に参加しました。米国ノース・コースト・カルバリー・チャペルから送られたスタッフが講師を務め、4日間、子供たちのトラウマ・ケアについて集中的に学びました。子供たちが、災害や親の離婚などで心のキズを負ったとき、どのようにケアすればよいのかを聖書的な観点からレクチャーされました。講師を務めたパム・



トラウマセミナーにて

トラウマ・カウンセリングのスペシャリストです。聖書から導き出された独自の理論を体系化し、実際にカンボジアの大洪水の際にも用いられました。

このセミナーで教えられた、ポイントの一つに「自分のネガティブな感情も正直に表現する」ということがありました。子供たちがトラウマから回復するには、心にある悲しみや恐れ、怒りなどの否定的な感情を、溜め込んでおくのではなく、外に出して表現することが必要だそうです。子供は語彙が少ないため、アートを用いながらの感情表現が有効ということでした。親やカウンセラーとの「愛情で結びついた人間関係」があれば、子供は安心して、自分の思いを表現することができます。ちなみに、心のキズからの回復に、感情表現が大切なのは、大人にも当てはまるそうです。



石巻市海友支援隊とボランティアのみなさんと

実際、僕は震災直後、自分の否定的な感情を表現することに抵抗感があったため、自分の心をうまくコントロールできませんでした。ライフラインがストップし、すべての店が閉まり、突如として日常の生活を奪い去られました。高ストレス化の状況が続き、心は不満や恐れ、嘆きでいっぱいになりました。しかし、「自分の否定的な感情を外に出しては

いけない」という間違った思い込みがあり、ひたすら感情を心に溜め込んでいました。すると、心は荒んでいき、すぐにイライラし、周りの人にも辛く当たるようになってしまいました。

そんな中、教会に行けるようになると、『津波の後で（アジス・フェルナンド著）』というテキストを使いながら、災害をどう捉え、ストレスや悲しみからどのように回復をしていくのかを学びました。この学びでも、自分の否定的な感情も素直に表現して良いことを学びました。幸い、私には教会の愛する兄弟姉妹と「愛情で結ばれた関係」があり、安心して自分の思いを打ち明けることができました。

今回のセミナーを受けながら、震災当初を振り返り、改めて自分に教会が与えられ、正直に感情を表現できる仲間が与えられていることを感謝しました。しかし、被災地には今も自分の心を打ち明けられず、1人で悶々とした日々を送っている人がたくさんいます。

どうぞ、被災地に置かれた教会が用いられ、被災者の精神的・霊的な復興に貢献することができるよう引き続きお祈りをお願いします。

<football0218@gmail.com>

All Nations Returnees Conference 2012へのお誘い

東京はJCFNの清水摂伝道師からいつもスイスニュースレターを有り難うございます。スイスでの働きが日本、そしてヨーロッパに拡がり、用いられている事を思われ、主に感謝しました。

今年11月22-25日にかけて第三回All Nations Returnees Conferenceが静岡県つま恋にありますヤマハリゾートで開催されますが、その案内をお送りさせていただきます。詳細はHPをご覧ください：<http://allnations.jp/anrc12/>

今年の「キリスト者の集い」へは、私は祈りでの参加ですが、ANRCの実行委員の三上さん（オランダJCFのオリジナルメンバー）が参加されます。海外邦人宣教に今直接かかわられておられる方々はもとより、特に既に帰国された方々の手にこの案内が届いたらと願っています。お問い合わせは sshimizu@jcfn.org へどうぞ。

ヨーロッパの日本語
教(集)会から

すずらん狩りを楽しみました。
パリ日本語教会は壮年会の
山越茂樹兄から

主の御名を賛美します。
今回はパリ教会の壮年会の近況(すずらん狩り)を報告させていただきます。
当日、天候は雨模様、下見の時に見つけておいた小屋にて昼食タイムを持ち、作田銀也兄と作田安子姉も合流されました。高橋稔先生からのショートメッセージをいただき、鄭兄(壮年会リーダー)からの話の後、すずらん狩りへと散っていきました。



わらびはやわらかく食べごろでした。目的のすずらんは残念ながらまだ花は小さく、でも香りは十分ありました。花よりだんごになってしまいましたが、子供たちは大喜び、大人も大喜びの一日でした。

壮年会の活動は毎月1度礼拝後、教会において勉強会が行われています。すずらん狩りにはパリ在住の方々や子供達も参加しました。すべてを整えてくださいました、主に感謝いたします。

(参加者の感想文はバルタージュ6月号を御覧ください。)

<koshi@orange.fr>

グリーンネ修養会に参加して。
オスロ日本語集会の
金子進兄から

「グリーンネ祈りの家」からの要請で**信仰成長セミナー**の講師として奉仕する機会が与えられました。グリーンネ集会には毎年1-2回ほど出席してお

り、皆さんとは顔馴染みです。クリスチャン生活もベテランの方が多く、他教会との交わりは少ないですが、それなりに素直で純粋な信仰を維持しておられます。



サレム教会で熱演中!の私

現代のクリスチャンが陥りやすい

マンネリ化信仰生活にならないよう、今回のセミナーを開催したそうです。依頼された講演課題は「**信仰の原点、イエスキリストの福音の理解と生活への適応、キリスト者としての人生、キリストの福音の奥義を理解**」などが挙げられていました。正直、びびってしまいました。

これを1時間半で仕上げ、あと1時間半は質疑応答とのことでした。しかし、気がついたときには2時間休みなしで語っていました。皆さんも時間を忘れて聞いて下さったようです。まだ8年前の大病の後遺症で笑えない顔でも、神様は語らせて下さいました。私のリハビリのための修養会だったかも知れません。いずれにしても感謝な修養会でした。



礼拝後のスナップ写真。こんなに美しい笑顔、見た事ありますか?

susumu kaneko <susumu.kaneko@gmail.com>

ミュンヘン宣教の感謝
ミュンヘン日本語キリスト教会は
安藤里佳子宣教師から

いつもスイス日本語福音キリスト教会のニュースレターをお送り下さり、感謝いたします。スイスの皆様だけでなく、ヨーロッパの諸集会、そして日本の方々のお便りも毎回興味深く拝見しております。ミュンヘンにおける邦人宣教のためにもお祈り下さり、感謝いたします。

早いもので私達夫婦が「在欧日本人宣教会」の派遣宣教師として承認して頂いてから3年が経ちました。そしてミュンヘンに移り住んでからは2年4ヶ月余りです。吹雪の舞う2月1日の真夜中に、ミュンヘン空港に降り立った娘達と私は、とても心細い気持ちでした。けれども住居にはすでに、ミュンヘン聖書の会のエルンスト三千代姉がヒーターを入れておいて下さった感動は忘れられません。

日本語礼拝は2010年の7月から開始し、2011年の5月には「ミュンヘン日本語キリスト教会」の設立式と私達夫婦の就任式を持つことができました。初めは礼拝には私達家族プラス1人か2人の出席者という日も多くありましたが、この所は子供の参加も増え、20名近くが与えられていること、多くの方々の祈りの結果として、心から感謝します。



私は2001年に脊髄腫瘍の手術をして以来、無理はできず、自分の体力には頼れなくなっていました。そしてミュンヘンでの伝道の働きにおいても、今一つ社会に飛び込むことができない自分を感じておりました。そんな中思いがけず、ここでの日本人コミュニティにデビュー(?)する機会が与えられたのです。

それはこちらで一番知られている日本食品店で、すでに主人がパートで働いておりましたが、急に辞められた店員の代わりに週1日働くことを頼まれたのです。これで大勢の日本人と顔見知りになるチャンスができました。一日9時間の



立ち仕事は確かにきついです、私にもまだこんな労働が可能だったのだ、と不思議な気持ちになります。毎回主が助けて下さっていることを感じます。

このパートの仕事は経済的な支え以上に私にとって毎回主のみにより頼むとい

う新しい訓練と恵みとしての意味が与えられていると思います。

今後多くの課題がありますが、主によって開かれたこのミュンヘンでの働きを、主に大いに期待しながら、歩んでいきたいと思っています。

"<gihigugmakoangdios@yahoo.co.jp>

おい、中村君！

スイスNL中村兄の証を読んで
ミュンヘン日本語教会は
安藤廣之牧師から

私にとっては今回のニュースレターの中村有志さんの証しが特に感謝でした。彼がデュッセルドルフにいた時（1年半位はあったでしょうか）には何回も教会に誘ったのですが、その間、たった2回しか礼拝には来てくれませんでした。ソフトボールと一緒に楽しくした思い出はあるんですが、私の存在がうとうしかなかったのかもしれない。

当時は自分と教会の無力を感じ、せつなくクンツ先生から紹介されたのに、導かれなくて、申し訳ないと思っておりました。しかし奥さんの（もちろん主の働きですが）力は凄いものですね。今回の証しを読むと信仰的にも確信されている様で、「僕に相談して下さい」などと書いているではありませんか！

やはり人を変えてくださるのは主です。焦らなくても主の時があるのですね。彼の証しを読んでそんな感謝を覚え、主を仰ぎました。機会ありましたら中村さんにもよろしくお伝え頂ければ幸いです。では又。安藤廣之

主のおかげです。

安藤先生への返信
スイス日本語福音キリスト教会は
中村有志兄から

安藤先生が僕のことを覚えて下さり、メールをいただいたことはとても感謝です。2005年から2007年の4月ごろまでデュッセルドルフに住んでいましたが、あの時の自分は、今思うと、キリスト教に関しては子供の反抗期みたいな時でしょうか。僕が病気になる前のことで、すべてがだいたいうまくいったので、教会に行くのも面倒だなあ・・・なんて感じていたのも事実です。

今思うと、折角安藤先生に何度も誘っていただいたにもかかわらず、ほとん

ど興味なしに過ごしていた自分が情けなく、安藤先生にも申し訳ない気持ちでいっぱいです。自分的には自分が変わったという実感はないのですが、実は大きく変わってるんですね。先生、僕も主のおかげで成長しました！

愛するスイス教会の皆様と、
ニュースレターを愛読しておられる
イエス様の愛で結ばれている
全世界の兄弟姉妹へ
ドイツはダルムシュタット、
マリア姉妹会のソハラ姉から



ドイツのダルムシュタットにある「小さなカナン」より、ご挨拶させていただきます。1977年にドイツへ導かれて、すでに35年以上になりますが、今回初めてヨーロッパキリスト者の集いに、

So Gott will, und wir leben, 参加させていただくことになりました。マドリッドで開催された集いには後一步というところで、参加を取り消さねばならず、残念でしたが、今回はイエス様が「行きなさい」と言っておられるようで、感謝しつつ、また祈りをもって備える日々です。

ちょうど日本から姉妹会共同体のヘルパーとして、去年の5月から来ておられる青年と共に、プレ大会から参加させていただけることを楽しみにしています。ある姉妹が車に乗せてくださるので、再びブックテーブルを準備します。もし日本語以外に他の言語の信仰書の必要がありましたら、喜んで用意しますのでぜひ一言私の方へメールしてください。

汗水流して準備をしてくださっている兄弟姉妹に心から感謝します。どうかみなさんの健康が支えられますように。初めてお会いできること、また再会できることを楽しみにしています。

<S.Sohara@kanaan.org>

ストラスブール伝道集会
「聖書のお話を聴く会」
スイスJEGは今村泰典兄から

この会は4年前当時ストラスブール大学でフランス語を専攻されていた学生、藤原江玲姉が学生達に聖書のお話を聞いていただける機会を設けたいということミラノ賛美教会の内村伸之牧師にお話さ

れ、牧師が2008年5月1日にイタリアからはるばる宣教に来られたのが最初でした。私は2008年6月26日に行われた2回目の伝道集会から参加しました。



その後、藤原江玲姉はすぐ日本に帰国され、私がバトンタッチして以後、不定期に続け、去る6月22日で14回目の伝道集会になりました。この2年間は「ヘンデルのメサイヤから学ぶ聖書」というテーマでしたが、今回は「聖書ってどんな本？」というテーマでお話されました。

『皆さんは西洋音楽を演奏されますか。または鑑賞されますか。これらの土台となっているのは聖書です。宗教音楽、宗教画は聖書そのものです。例外を除いて、フランスおよびヨーロッパ各国では小学校、中学校で宗教の時間があ、義務教育を終えた頃には、聖書全般についての知識(一般教養)が得られる様になっています。教会のステンドグラスを見て、あるいは受難曲などの宗教曲を聴いてそれが聖書のどの部分から取られているか、またその精神を理解できるのは素晴らしいと思いませんか。この「聖書のお話を聴く会」は、欧州の土地で生まれ育った人々と、同じ文化、および精神の土台を共有する為にも欠かせない聖書について、日本語で学び、味わい、理解を深める事を目的としています。』

という伝道目的のフレーズと共に毎回案内を出しています。

音楽学生はもとより、芸術、文学の留学生には西洋文化の基盤になっている聖書に興味を持っている人が少なくありません。しかし週末と違って学校で授業がある金曜日ということで参加したくてもできない人もいますが、最近では学生のみならず一般の方もお見えになり毎回10人から15人くらいの参加者が来られています。その中から近い将来、救われる方が出てくる事を期待しつつ、今は種蒔きの時期と感じ、忍耐強く様子を見守っています。また、最後になりましたが皆様のお祈りと尊い献金に心から感謝を申し上げます。どうぞ引き続きお祈り頂ければ幸いです。yimamura1019@gmail.com